

外国人の目・市場の目・AIの目から、インバウンド情報発信を考える

外国人とAIが 知りたい情報は**同じ**だった?!

参加無料

外国語で発信するだけでは、選ばれません。旅行者が「ここなら行ける・利用できる」と判断できる情報は、AIが理解・参照しやすい情報でもあります。

2026 **11.4** 水 受付開始 13:10
13:30-16:10

会場

市民交流施設

高田城址公園オーレンプラザ
研修室

上越市本城町8番1号

PROGRAM 外国人の目 → 市場の目 → AIの目 → 自分の店・施設を見直す

01

13:40-14:15

外国人の目

欧米から見た日本・上越妙高

欧米の旅行者は地方をどう見て、何を知りたいのか。「伝えたい情報」と「知りたい情報」の違いを考えます。

Blue Sea House 直江津
ニック・クラーク氏

オンライン・通訳付き

2003年から妙高で外国人客受入をはじめ、旅行情報サイト運営や直江津で民泊展開を行う地域観光の牽引者。

02

14:35-15:10

市場の目

台湾の旅行者を日本の地方へ

台湾市場の特徴と、なぜ台湾人が日本の地方をめざすのか、台湾人が好きなもの、なにを求めているのかを解説します。

MAHORA西野谷 古民家宿
サイウエンル
蔡 紋如氏

妙高市観光協会でインバウンド推進、農業×観光で地域活性化を進める起業家。2024年4月 MAHORA西野谷を開業。

03

15:10-16:00

AIの目

外国人とAIが知りたい情報は同じ？

美しいイメージだけでは何も伝わりません。今回は手元のスマホを使い、外国人に伝えるAIチラシを作るワークショップを行います。

旅ナカラボ合同会社
野添 幸太氏

旅行会社で新規事業開発を25年以上担当した経験とアイデアを生かして、全国で地域観光事業開発支援を実施。

ねらい

インバウンド対応＝外国語対応、ではありません。旅行者が選び、行動できるように情報を整える『情報設計』の視点で、自店、自施設で明日から改善できることを持ち帰ります。

対象 観光・宿泊・飲食・体験事業者
など

参加費 無料

定員 30名程度（先着順）

持ち物 スマートフォン（ワークショップで使用）

申込 右のQRコードからお申し込みください。

締切 10月30日（金）17時



お申込みはこちら